

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **大学院保健学研究科**

部局長名： **廣畑 聡**

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
<p>学位プログラムの開講に向けて、現行の大学院コースを見直して、新たなプログラム構築の整備をおこなう。</p> <p>コロナ禍にあっても優秀な学生を確保するために、入試説明会をオンラインで開催する。</p> <p>生殖補助医療技術キャリア養成特別コースにおいては環境生命科学研究科との連携を図り、一貫教育を推進する。</p> <p>教育の質保証のため、大学院生の中間発表会を実施する。</p> <p>外国人大学院生の学修支援環境を充実させ、ICTを活用することでコロナ禍であっても英語で完全対応する双方向型の授業を構築し、実施する。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号 3③、9⑤、14 ①、</p> <p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>教務委員長を中心に、学位プログラムWGを立ち上げて文科省への申請も含めて対応を進めた。その結果、令和4年度から保健学域すべてにおいて一斉に学位プログラムを開始することができることになった。</p> <p>オンライン大学院入試説明会を開催して、大学院入学者充足につながられた。</p> <p>生殖補助医療技術キャリア養成特別コース(保健学科)を経て環境生命科学研究科で研究を継続する学生を輩出(1名)して、一貫教育を推進した。</p> <p>大学院生の教育における内部質保証を確保するため、中間発表会を開催した。</p> <p>外国人大学院生に対して完全オンラインの下、英語対応の双方向性講義を実施して単位取得させた。</p>
②研究領域	
<p>研究開発・推進委員会における議論を深め、研究成果紹介活動等の研究情報の発信を行い、外部資金獲得へ向けての戦略をたて、実施する。</p> <p>研究開発・推進委員会において、若手教員や大学院生の研究をサポートする仕組みを議論し、若手教員や大学院生の研究を推進する。</p> <p>研究力のある、若手教員、女性教員の採用に努めるとともに、国内外からの客員研究員などの受入を実施して、海外研究機関との連携を検討し、共同研究パートナー獲得など、国際共同研究を推進する。</p> <p>科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号 33②、37②、 【38-1】、85 ①、</p> <p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>研究開発・推進委員会を中心に、外部資金獲得を誘導するため、学外との共同研究を目指す新規研究プロジェクト公募を研究科内で行い、2件の新しい研究に対して支援を行った。</p> <p>若手研究者を支援する取組として、採用5年未満の若手助教および大学院生を中心とした若手の会を立ち上げ、次世代交流セミナーを開催し、大学院生を中心に60名以上が参加した。</p> <p>研究力のある若手教員や女性教員を採用した。タイ国シーマハサラカム看護大学との新たな共同研究を立ち上げて、国際共同研究を推進した。</p> <p>科学研究費の採択率については、前年度33.3%から挑戦的研究を除いた現時点での採択率24%となり採択率は低下したが、新たに基盤Bが1件採択された。研究開発・推進委員会において、ただちに採択結果の分析と次年度への対応を開始し、不採択課題の添削指導に着手した。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	
<p>周産期医療、地域母子保健に関与するスタッフのスキルアップやリカレント教育による「妊娠中からの母子支援」即戦力プログラムをコロナウイルス禍であっても継続して実施して、履修者の養成を行う。</p> <p>国内外からの受験生、留学生を増やすために、保健学研究科の広報を検討する。</p> <p>大連医科大学(中国)大学院とのO-NECUS(岡山大学—中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定による留学生受入れを推進するとともに、後期博士大学院生(post O-NECUS)への進学を推進する。</p> <p>UNCTAD(国連貿易開発会議)と岡山大学が締結したUNCTAD短期外国人研究者受入プログラムにおいて、アフリカから若手女性研究者を受け入れることを目指す。</p> <p>社会貢献事業の多面的な展開として、岡山大学保健学研究科の研究情報を提供し、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号 46①、47②、</p> <p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>リカレントプログラムの「妊娠中からの母子支援」即戦力プログラムについては、<u>コロナウイルス禍であってもオンラインによって継続実施し、例年と同様に19名が修了した。</u>受験生・留学生を増やすためにパンフレットを一新して大学院の充足に貢献した。</p> <p>コロナウイルス禍のため、post O-NECUS学生1名を含め、留学生が来日できない状況が続いているが、O-NECUSプログラム協定による留学生の受入れを推進するためオンライン説明会を行った。</p> <p><u>UNCTAD短期外国人研究者を学域として2名受入れ、コロナ禍で渡日が困難な状況下で、オンライン指導を行ってプログラムを無事に修了させた。</u></p> <p>研究領域での社会貢献の一環として公開講座を2件実施して、一般の方を対象に専門知識を分かり易く講演した。</p> <p>コロナウイルス感染拡大の第5波、第6波によって保健所業務がひっ迫した。そのような状況下で、岡山市から保健学域への支援の要請に対して学域をあげて積極的に応じ、教員が保健所へ出務し、合計42人・日の保健所聞き取り調査業務支援を実施し、週末や平日夜間を中心に社会貢献活動を行った。<u>津島でのワクチン拠点接種に看護師・医師として教員を派遣し、大学の社会貢献に尽力した。</u></p>
④管理運営領域	
<p>研究科長室会議、研究科運営会議、教員連絡会などの実質化により、ガバナンス機能を強化する。</p> <p>教務委員会、学生生活委員会、入試委員会、広報委員会の連携を強化するとともに、医療教育センターとの連携を図る。</p> <p>優秀な若手研究者を確保するため、テニュア・トラック制の拡大を推進する。</p> <p>若手教員や学生からの意見収集を行うとともに、研究科運営に反映させる。</p> <p>外部評価委員会による活動評価を点検し、改善点を踏まえた目標を設定して実行する。</p> <p>学科や研究科の運営にあたり、女性教員を積極的に登用する。</p>	<p style="text-align: center;">関連する 年度計画の番号 41②、70④、 【70-1】、【71-1】、</p> <p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>ガバナンス機能を強化するために、特命担当研究科長補佐を3名任命し、研究科の運営会議に陪席させるとともに、全学の教育・研究評議会にも陪席させ、<u>大学本部の方針や情報を共有したうえで管理運営の一部を担わせることで、次世代の執行部幹部候補若手教員を育成を図った。</u></p> <p>医療教育センター連携教員を1名派遣して連携を強化した。</p> <p>テニュアトラック制をすべての分野に拡大し、研究能力の高い教員確保につながった。</p> <p><u>全教員から個々に意見聴取する機会を設けて研究科運営に反映させるとともに、将来の研究科の目指すべき方向・大学の将来などについて語り合い、学域に所属する教員の進むべきベクトルを一致させた。</u></p> <p>外部評価を実施して、評価委員からの改善点を踏まえた目標を設定して、教員にも浸透させて取り組ませた。</p> <p>医学部副学部長や研究科の委員長など運営にあたる管理職に女性を積極的に登用した。</p>